

So Many Men, So Many Minds

昨日は芸術鑑賞会として「学校寄席」をみんなで楽しみました。今どきの「お笑いライブ」とはまったく趣を異にするので、果たして今の高校生にどの程度受け入れられるのか、正直ちょっと心配だったのですが…それはまったくの杞憂でした。想定以上に盛り上がりましたし、とにかく、あの話芸や曲芸には圧倒されました。これぞ「プロ」というものを見せてもらいましたね。「生」で体感することの大切さを改めて感じました。それにしても、あんなに早口でしかも内容をしっかり伝えるという技、教師としてはリスペクトしかありません。

「生」での迫力、ということで言うと、少し遡りますが、10月末日には合唱コンクールが開かれました。今年は体育館の冷房工事の影響でホールでの開催となり、他学年の発表はリモートでの視聴となりました。また保護者の方々には動画配信という形となってしまいました。その点については残念でしたが、その代わり、ホールは体育館よりも音の響きが良く、どの発表も非常に迫力があり、心に訴えるものがありました。

もちろん、そのように感じたのはホールだったからというだけでなく、皆さんの発表自体がとても良かったからに他なりません。冒頭の挨拶でも伝えましたが、賞をとる・とらないはあまり関係がなく、それぞれのクラスが「今日が過去イチだった!」と感じられていれば、それで大成功だったと思います。

さらに、翌11月1日(土)には公開授業が行われました。これは、大きく次の2つ

○ 皆さんの後輩になるかもしれない中学生へのアピール。

○ 御家庭の方々に皆さんの日頃の様子を見てもらう。

を目的としています。受入れ準備や、「公開理科実験教室」をお手伝いしてくれた皆さん、ありがとうございました。アンケートを読むと、本校の魅力が中学生の心に強く刻まれたことがよくわかります。実際に本校の生徒(=未来の先輩)を見たり、交流したりしたことで、本校生徒になるぞという意志がさらに強固になったはずです。

また、保護者の方々につきましては、例年以上にたくさんお越しいただきありがとうございました。多々至らない点があったことは、アンケートで御指摘いただき、職員一同把握しております。真摯に受け止め、今後の課題とさせていただきます。

一方で、非常にたくさんの感謝やお褒めの言葉も頂きました。そのようなお言葉は、我々にとって**何よりの励み**になっております。本当にありがとうございました。

ここで、様々ないただいた御意見・御感想の中から、授業に関することに少し触れておきたいと思います。

A アクティブラーニング…生徒を活動させ、ICT機器を使うなど、生徒の興味を引くような工夫を凝らす授業

B 演習と教師による解説中心

数年前からAのスタイルが推奨されている傾向があり、実際、生徒が思考力・判断力・表現力を身につけるには、この形式に多くの利点があると思います。アンケートでも、多くの

保護者の方からは、このような授業を見て、「今の生徒はうらやましい」など、好意的な感想をたくさん寄せていただきました。

しかし何事にも短所・難所はあります。今回のアンケートで「授業中の私語が目立った。」というような指摘がいくつかあったのですが、確かにそういうクラスもあったかもしれません。生徒が気兼ねなく意見交換する雰囲気を作るためには、リラックスした状況を作り出すことが不可欠だからです。しかしその「度」が過ぎると規律がなくなってしまいます。しかしだからと言って、厳しめに指導すると、今度は「笛吹けども踊らず」…シーン…みたいな状態になりかねません。このあたりの**匙加減**が、非常に難しいのです…。

一方、Bのスタイルは、正直なところ、「見映え」は良くないかもしれません。ですから、「せめて公開授業のときはもっと活動的な授業を！」と望む意見もあったのですが…これがなかなか難しいのは…授業にはそれぞれ計画があり、公開授業に合わせて変更することが容易に行かない場合がある(多い、と言っても良い)のです。授業は、たいていAとBのスタイルを織り交ぜながら年間で指導を進めて行くので、公開授業の日に演習や解説中心の授業になってしまうこともあるということです。

ただ補足しておきますと、「楽しく元気に」よりも「大学進学を見据えて、しっかり鍛えてもらいたい」という声があるのも事実です。このあたり、本当に難しいところですが、様々な御意見を職員で共有し、より実のある授業を目指していきたいと思います。

なお、「春の時と全く同じ授業だった」という御指摘もあったのですが…申し訳ありませんが、ここもなかなか難しいところでして…年間で見て授業日の少ない曜日の授業をベースに、さらに当日の出張等を加味しながら授業が決まってくるので…たまたま同じになってしまうことは避けられないものだ、ということで御理解いただけたら、と思います…。

さて最後にもう一つお知らせです。すぐ一にてお知らせしましたので、既に御存じの方が多いかとは思いますが、11月7日(金)に、本校と**千葉大学情報・データサイエンス学部**が「高大接続に係る協定」を締結いたしました。

本校は千葉大学**工学部**と2016年以来提携してきたところですが、昨年その工学部から独立する形で情報・データサイエンス学部が誕生しました。そして早速昨年、本校との連携講座を実施していただいたのですが、このたび改めて正式に情報DS学部とも協定を結び、連携を深めましょうという運びになったというわけです。情報DS学部が高校と協定を結ぶのは、本校が「初」ということなので、大変光栄な話ですよ。これはひとえに、これまでの先輩方が千葉大学にたくさん入学してきたことや、本校の理数科やSSHコースの先輩方が様々な発表会等で活躍してきた**実績**が認められたおかげです。

情報DS学部では、情報処理等の知識やスキルはもちろん重要ですが、その上で、そのデータの背景に何があるのかを洞察したり、そのデータを使って何ができるのかを提言したりなど、極めて「**人間的**」な力も必要とされるそうです。本校が日頃から取り組んでいる、まさに「**分野融合**」の力が問われるわけです。これを機にぜひ皆さんに興味を持っていたらと思います。

この千葉大学に限らず、その他外部機関との様々な連携等を通じて、皆さんのキャリア形成に寄与できれば…という期待があります。やってみた結果「自分には向かない」ということでも全然OKだと思います。キャリアの選択肢を広げるばかりではなく、減らしていく作業も、実はとても大切です。大切なのは、**やってみて、そして実感する**…ということです。まさに「生」の体験が大切だ、ということです。